

冬休みに向けて

生活指導部

2学期も残すところ3週間となりました。その後、冬休みがやってきます。年末、年始には子供たちにとって楽しい行事が続きますが、その冬休みを充実したものにするために、次の3つのことに御留意ください。

① 安全

何かと気ぜわしくなる年末は、大人の目が届きにくくなりがちです。交通事故や、不審者等による事件・事故はもちろん、火遊び等の事故にも十分に気を付けてほしいときです。また、年末年始など子供たちが大金を手にする機会があるのも冬休みの特徴です。思わぬトラブルに巻き込まれないよう、子供たちだけでゲームセンター、遊園地、繁華街に行かない、また、公園での遊びは暗くならないうちにやめて帰るなど、生活の約束について御家庭で十分に話し合ってください。お子さんの様子が変わったことがないか、気に掛けることも大切です。

また、地震などの自然災害に対する意識も高めておきたいものですね。

② 規則正しい生活

年末年始のイベントが多い冬休み、夜更かしをする機会も多くなり、生活のリズムが乱れがちになります。できる限り早寝・早起き・朝御飯などの生活リズムを崩さず、元気な生活を送ってほしいと思います。

③ 家族の結び付きを大切に

冬休みは、年末の大掃除や新年を迎える準備など、家族で一つのことをやり遂げながら、多くのことを子供たちに教えることのできる絶好の機会です。家の仕事を手伝わせたり、親子で一緒に遊んだりするなど、意識的にふれあいの場をつくっていただけたらと思います。

なお、後日配布します「冬休みの生活」について、お子さんと内容をよく御確認ください。

本に親しむ

図書部

12月5日（水）から、読書旬間が始まります。この期間には、20分休みに10分間集中して読書に取り組みます。今年度も子供たちは、「本郷小の150冊」を中心に読書に取り組んでいます。「本郷小の150冊」は、先生たちがおすすめる本で構成されており、低学年70冊、中学年50冊、高学年30冊が設定され、6年間で150冊の本を読破できるようになっています。この150冊を読み進めていく中で、子供たちに、1冊でも多くの自分に合った本やお気に入りの本を見つけてもらいたいと願っています。

本郷小学校では、読書旬間以外にも、日頃から昼の読書に取り組んでいます。子供たちは、オープンスペースにある「本郷小の150冊」や図書室の本など、様々な本に親しんでいます。また、全学年対象で月に1回、地域支援スタッフのボランティアさんによる読み聞かせが行われています。夏休みには、ペープサートや科学実験など図書を利用した楽しい夏休みイベントが行われ、多くの児童が訪れました。地域支援スタッフのボランティアの方、学校図書館支援員や地域支援スタッフによるレファレンス（必要な資料の検索や準備）や休み時間の貸し出しも行われ、休み時間の図書室には、いつもたくさんのお客さんが来室しています。この機会に読書への意欲がさらに高まることを期待しています。

遠足の感想 2年生

- ・原っぱに寝っ転がって空を見るのは生まれて初めてだし、今日は、晴れていて青空だったので、とてもいい気持ちでした。
- ・秋なのに、せみの抜けがらが2つありました。どうしてせみの抜けがらがあつたのかは、せみが長く生きて頑張ったからです。
- ・一番心に残ったことは、原っぱで寝転んだことと、みんなでお弁当を食べたことです。初めて原っぱで寝転んで、気持ち良かったです。
- ・遠足でどんぐり拾いするとき、丸っこいどんぐりや、長いどんぐりをたくさん見つけて、楽しかったです。
- ・私は、どんぐり拾いするとき不思議などんぐりを拾いました。半分は黄色で、もう半分は茶色でした。
- ・お弁当を食べたときに、芝生がフカフカしていました。すごく気持ち良かったです、楽しかったです。